

-----  
一般社団法人レジリエンス協会 メールマガジン

2013.5.27 (第5号)  
-----

【目次】

1. 定例会内容ダイジェスト報告 (2013.5.13 開催分)
2. 主催、後援セミナー開催のご案内
3. 次回定例会開催のご案内
4. 会員募集のご案内

【1. 定例会内容ダイジェスト報告】

日 時：2013年5月13日(月) 13:20~17:00

場 所：京都大学 東京オフィス

参加者数：37名(講演者を含む)

(1) 「ISO22320：緊急事態管理」－ 林 春男氏(京都大学防災研教授、レジリエンス協会会長)

- ISO22300、22301、22320等に対する、世界各国の国内適用状況(採用、検討中、不採用)の説明および、ISOの規格化に向けての何段階にもわたるステップと、ISO22320、22322、22324、22325、22351等の現時点でのそれぞれの進行状況(どの段階にあるか)の説明がありました。最初の規格化の発議から、最終文案決定まで、ほぼ3年かかるとのことでした。
- 規格化に際しては、規格作成に携わっているそれぞれの国の思惑もあり、必ずしも中身の濃い規格にならないもの(骨抜き規格?)も出てくるのではないかという(裏)話も伺うことが出来ました。

→ 当日の講演資料はレジリエンス協会HP内「メールマガジン」ページ参照

[http://www.resilience-japan.org/mail\\_magazine](http://www.resilience-japan.org/mail_magazine)

- ・英語圏では日本語の「危機」という言葉、概念が無いという話を聞くことができました。日本では色々な局面のケースを、広く「危機」という言葉一つでとらえているが、彼らは発生頻度と被害程度の段階に応じて、程度の低い方から、Incident、Emergency、(短期で解決する；現場主導)そして、Crisis、Disaster、Catastrophe、(長期の活動を必要とする；現場+対策本部)と概念をきちんと分けて捉えているそうです。その他インシデント・コマンドシステム等いろいろな興味深いお話を伺うことができました。

★レジリエンス協会は、各種のISOシリーズの普及・啓発に日本規格協会と協同して取り組んでいます。

→ 次回の普及・啓発セミナーは6月27日に開催致します。

内容は次項【2. 主催、後援セミナー開催のご案内】をご覧ください。

(2) 「復興力のある静岡を目指して ―地域のレジリエンスを高める― 」

津富 宏（静岡県立大学国際関係学部教授）

- 「レジリエントなコミュニティをつくる」と題して、津富氏が少年院の教官であった時の経験からの犯罪者の立ち直り研究等を通じた、レジリエンスとの出会いの経緯や、氏の静岡への深い思い入れのもと、静岡のレジリアンス（復興力）を高める活動についてお話いただきました。
- レジリエントな地域（災害に強い地域でもあると言えます）とは、
  - ①開かれた議論の場がある
  - ②共助がある
  - ③逆境を乗り越えたことがあるの3つがある地域のことだそうです。

→ 詳しくは当日の講演資料；レジリエンス協会 HP 内「メールマガジン」ページ；参照  
[http://www.resilience-japan.org/mail\\_magazine](http://www.resilience-japan.org/mail_magazine)

(3) 「ISO 22324 カラーコード」― 尊田 京子氏（株式会社東京医療コンサルティング）

- 冒頭講演「ISO22320：緊急事態管理」にも出てきた「ISO22324」のセキュリティ・カラーコードによる警告の説明がありました。
- カラーコードは信号灯の一般的なものから、例えば医療等で良く知られている災害時のトリアージタグ（赤、黄、緑、黒）等があります。また、医療機器の注射針の太さなど各メーカーで異なった色相順を使っているなど、過去に現場では極めて使いづらい環境があった為、薬事法改正時に製品ごとに統一が行われたこともあるそうです。

→ 当日の講演資料はレジリエンス協会 HP 内「メールマガジン」ページ参照  
[http://www.resilience-japan.org/mail\\_magazine](http://www.resilience-japan.org/mail_magazine)

(4) 「東海圏減災研究コンソーシアムについて」

― 増田 幸宏氏（豊橋技術大学准教授：当協会副会長）

- 南海トラフ巨大地震克服のための、大学力（地域関連6大学連携）を結集した「東海圏減災プロジェクト」の取り組みの現状についてお話いただきました。  
特に「人は大変な事に直面した時には、頭は30%しか動かない」という事を前提に取り組みねばならないということでした。

→ 当日の講演内容の簡略イメージ図はレジリエンス協会 HP 内「メールマガジン」ページ参照  
[http://www.resilience-japan.org/mail\\_magazine](http://www.resilience-japan.org/mail_magazine)

- その他、増田氏が取り組んでいる、その他のプロジェクトの進捗状況についての報告がありました。  
「大学 BCP(BCM)」「高層階住宅プロジェクト」「建物機能継続計画」「建物倫理を考える」

(5) 「ISO 22301 の認証支援 ～体験談～」

— 小山 隆氏 (株式会社ヒルベット・ソリューション)

- ある企業の「ISO22301」の認証支援の実例を踏まえて、その構築ステップと工程の実際、適用範囲や特定リスクに対する考え方を踏まえての具体的な被災シナリオの作成、事業継続戦略、計画の作成等についてお話いただきました
  - 最終的なポイントは「可視化」であり、社会インフラも含めた経営資源の発災時とその後の時系列での復旧状況とそれにとまなう各部門の行動の具体的なイメージを組織内で共有できるようにしておくことが重要であるということでした。
- 当日の講演資料はレジリエンス協会 HP 内「メールマガジン」ページ参照

[http://www.resilience-japan.org/mail\\_magazine](http://www.resilience-japan.org/mail_magazine)

## 【2. 主催、後援セミナー開催のご案内】

### (1) 「ISO28000 シリーズはこんなに役立つ」

～世界はサプライチェーンセキュリティに何を求めているのか～

- ◆ 日 時： 2013年6月27日(木) 10:40～12:00
  - ◆ 会 場： 京都大学東京オフィス (東京・品川)  
<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/tokyo-office>
  - ◆ 講 師： 東京海洋大学教授 渡邊 豊 氏
  - ◆ 受講料： 無料
  - ◆ 定 員： 60名
  - ◆ 主 催： 一般社団法人レジリエンス協会
- <申込方法> 以下のアドレス宛、氏名、所属(企業、学校等)を明記の上お申込み下さい。  
[ykohno@arm.jp](mailto:ykohno@arm.jp)

### (2) 危機管理に関する国際規格シンポジウム

～ISO 22320、22322、22324 (緊急事態管理・警報・色コードによる警報)の開発動向～

- ◆ 日 時： 2013年6月27日(木) 13:00～17:00
  - ◆ 会 場： 京都大学東京オフィス (東京・品川)  
<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/tokyo-office>
  - ◆ 講 師： 林 春男 氏 (京都大学防災研究所 教授)  
黄野吉博 氏 (レジリエンス協会代表理事)  
(パネルディスカッションには両氏に加え以下のメンバーが参加)  
田代邦幸 氏 (インターリスク総研 主任研究員)  
尊田京子 氏 (東京医療コンサルティング 代表取締役)  
中澤幸介 氏 (モデレーター：リスク対策.com 編集部 編集長)
  - ◆ 受講料： 一般 10,500 (税込)  
日本規格協会維持会員、レジリエンス協会会員 9,450 (税込)
  - ◆ 定 員： 60名
  - ◆ 主 催： 一般財団法人日本規格協会 (後援) 一般社団法人レジリエンス協会
- <申込方法> 日本規格協会ホームページの本セミナー開催案内サイトにある「申込フォーム」からお申込み下さい。  
日本規格協会維持会員およびレジリエンス協会会員の方は、申込フォームに

その旨必ず明記して下さい。

### 【3. 次回定例会開催のご案内】

日 時：2013年8月9日（金） 13:30 - 17:00

場 所：京都大学 東京オフィス <http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/tokyo-office>

東京都港区港南2-15-1 品川インターシティ A棟 27階

参加費用：無料

<プログラム> 詳細決定次第、HP、メルマガ等でご案内いたします。

### 【4. 会員募集のお知らせ】

当協会では会員を募集しております。当協会はレジリエンスに関する情報収集、意見交換の場として各業種、団体等の方々にお気軽に参加いただいている会です。レジリエンスにご興味をお持ちの方は、ぜひ一度定例会（無料）にご参加いただき、会の活動状況等を実際にご確認いただければと思っています。

（参考）個人会員の年会費は10,000円（消費税込）です。

法人会員（105,000円）もあります。

入会申し込み方法につきましては下記リンク先のページをご参照ください。

[http://www.resilience-japan.org/aboutus/application\\_form](http://www.resilience-japan.org/aboutus/application_form)

-----

※ 本メールマガジンは次の方々にお送りしています。

- ① 当協会の会員および会員から紹介のあった方。
- ② 当協会開催のイベントに、申込み・参加された方でメールアドレスをお知らせ頂いた方。
- ③ 当協会の関係者と名刺交換された方で、レジリエンスにご関心があると思われる方。

※ 本メールマガジンにお心当たりがない場合、また講読を中止する場合は、以下までメールにてお知らせください。登録を解除いたします。

[「info@resilience-japan.org」](mailto:info@resilience-japan.org)

※ 本メールマガジンに掲載される記事の著作権は、原則として発行元に帰属します。

引用、転載、雑誌掲載いずれの場合も、本メールマガジンのコンテンツを利用される場合は出典を付記するようお願いいたします。

※ 本メールマガジンに関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

発行元：一般社団法人レジリエンス協会

<http://www.resilience-japan.org/>

-----